

認知症予防・早期発見スクリーニング体制構築のための検証研究

しもだゆうき¹⁾、河月稔²⁾、荒木さおり³⁾、西本亜希子³⁾、吉村純子⁴⁾、池田伸夫⁵⁾、浦上克哉¹⁾

1) 鳥取大学 医学部 保健学科 認知症予防学講座（寄附講座）、2) 鳥取大学 医学部 保健学科 生体制御学講座、

3) 鳥根県立大学 看護栄養学部 看護学科、4) 鳥取看護大学 看護学部看護学科 成人・老年看護学領域、

5) 北栄町福祉課 地域包括支援センター

【目的】本研究の目的は、認知症予防・早期発見のためのフローを検討し、スクリーニング検査の組み合わせによって健常群、前臨床期認知症疑い群、軽度認知障害（MCI）疑い群、認知症疑い群を定義、その割合を調査することである。【方法】研究対象者は、北栄町在住の令和7年度に60歳以上になる者の内、介護保険サービスを利用していない5,235名とした。対象者全員に郵送にて案内状を送付・地元TVなどで周知し、QRコード等から予約した会場・要請を受けてイベントを設けた会場にて検査を実施、アンケートを回収した。スクリーニング検査はもの忘れ相談プログラム（MSP）、嗅覚機能検査（ニンテスト）、タッチパネル式認知症評価スケール（TDAS）を用いた。筋肉量測定、生活習慣等に関するアンケートも併せて実施した。スクリーニング検査の点数から、健常（MSP 正常・ニンテスト正常/MSP 正常未満・TDAS 正常・ニンテスト正常）・前臨床期疑い（MSP 正常・ニンテスト正常未満/MSP 正常未満・TDAS 正常・ニンテスト正常未満）・MCI 疑い（MSP 正常未満・TDAS で MCI 疑い）・認知症疑い（MSP 正常未満・TDAS で認知症疑い）に分類した。

筋肉量、生活等のアンケートでも複数の項目で各群間に有意差を認めた。【結果】対象者 5,235 名の内、実際に受検したのは 445 名で、全体の 8.5% であった。このうち解析可能な 443 名をフローチャートで分類したところ、正常群 41.7%、前臨床期疑い群 51.2%、MCI 疑い群 4.3%、認知症疑い群 2.7% となった。【考察】今回北栄町では前臨床期疑い群が多く、まだ認知機能の低下は起こっておらず MCI にも相当しないが、将来認知症になる可能性が高いと思われる者が目立った。抗体治療薬が処方可能となるなど早期発見がより重要になっている昨今、このような群を早期発見するため簡易な嗅覚機能検査を取り入れることが必要と考える。【倫理的配慮】本研究は鳥取大学医学部倫理審査委員会の承認を得、文書で同意を得た（整理番号 25A104）。